第9号
2014 VOL.9
隔月誌
平成26年9月発行

かなえるレター

かなえるリハビリ訪問看護ステーション



担当スタッフより

お孫さんや、施設スタッフの方の励ましで、いつも気持ちを前向きにリハビリに取り組まれています。今回の絵は自信作とのこと。素晴らしい仕上がりですね。

今月の表紙
作品　ひまわり
大阪市　森田幸子さま

かなえるレターからのお知らせ

ご利用者数　H26/8/19時点
介護保険 480名　その他 6名
医療保険 204名　計 690名　社員数80名

ご利用者からの投稿募集



かなえるレターではご利用者の投稿を募集しています。
俳句、川柳、随筆、絵手紙など作品の種類は問いません。
あなたの作品をこの紙面で発表してみませんか？
詳細は郵送、FAX、メール、または、訪問スタッフまで
お問い合わせ下さい。あなたの投稿をお待ちしております。

かなえるリハビリ
訪問看護ステーション
〒550-0015
大阪市西区南堀江1-16-15
名城ビル4階D号室
tel 06-6531-3500
fax 06-6531-3510
e-mail：info@kanaerulink.co.jp

かなえる　～ご利用者とともに～

　前号に引き続き、今号でも当訪問看護ステーションを利用されているご利用者の取材をさせて頂きました。
　今回もゴルフがご趣味の８０歳代前半の男性Sさんです。ゴルフは35歳から始められたそうです。他にもテニス、野球、陸上競技、ラグビーなどたくさんのスポーツを経験されてこられたスポーツマンです。
取材をさせていただく中で、Sさんよりこれまでの人生で経験してこられた事など、たくさんのお話を聞かせていただけました。

　教育者一家のもとに育ったSさんは、学生時代に工学部で金属を専門に勉強してこられました。
また、その時にたくさんのスポーツもされており、どの競技も高いレベルでこなされるSさんは前述の各運動部から助っ人として引っ張りだこだったそうです。社会人となった後は26歳で独立。学生時代に学んだ知識を活かし、鋳鋼(鋳造した鋼)を専門とした会社を起業されました。ここでもスポーツで培った精神力で、毎日努力を積み重ね、多い日には1日に８時間もの勉強をされたそうです。
　着実に経営者としての道を邁進してこられたSさんですが、10数年ほど前に体の調子を崩されてしまいました。
そして、その後は趣味であったゴルフの回数も減っていき、プレイする事が難しくなってきました。

　そのような状況の中、身体機能の回復を目指し担当療法士とのリハビリが始まりました。
もともと努力家のSさん、担当療法士とのリハビリも二人三脚で確実にプログラムをこなしていかれました。取材当日も真剣にリハビリを受けておられる姿が印象的でした。
もう一度好きだったゴルフをプレイしたい。
　そんな想いから、Sさんは練習用のゴルフクラブも自作し、スイング用の練習環境も整えられ、ご自身からゴルフの練習をされています。
　療法士との訪問リハビリの効果も現れだし、身体機能も向上してきました。
現在ではコースにてプレイする事も可能となりました。コースを歩く距離も少しずつ伸び、現在では18ホールのラウンドも出来るようになりました。

取材中、とても印象に残ったSさんの言葉がありました。
「現状維持ではだめだ。」
Sさんは学生、社会人、経営者時代と常に前へと進んでこられたのだと思います。
どんな状況でも挑戦する事、この姿勢を保ち続けることの重要さを教わりました。
そして、これからも全力でサポートさせていただきたいと強く感じました。





ご利用者投稿のコーナー





こんにちは。私は手足の痺れがとても辛いです。ウォーキングも始めました。一歩でもしっかり歩きたいからです。私は、１夢をかなえる。２希望をかなえる。３努力をかなえる。この３つの目標に向かっています。「かなえる」という言葉が大好きです。孫達といっぱい楽しみたいからです。色鉛筆でリハビリのために花の絵を描いています。自分のペースでがんばります。

大阪市
森田幸子さま

ご利用者コメント



大阪市　谷本兼雄さま
作品　　ペン習字

ご夫婦で担当しています。奥様が嬉しそうにご主人のペン習字を見せてくださいました。ご本人も照れくさそうに笑っている顔が印象的です。毛筆もされていたようで見せていただく約束をしました。また掲載できるのを楽しみにしています。

担当スタッフより

この素敵な笑顔に訪問している私が反対に癒されています。
達筆と集中力に感心させられました。若い頃は色々とご趣味をお持ちで、タンゴやブルースをダンスホールで踊っていたとか。
「きよしのズンドコ節」に合わせて足の体操をしていますが、いつか2人で、タンゴのリズムに合わせて踊ろうと計画しています。

担当スタッフより

ご利用者コメント

ご本人「いやもー勘弁してくださいー！」
奥様「療法士さん、看護師さんに来ていただけて、明るい時間を過ごしています。」







私は若い頃からミシンの仕事をしており手先を使った作業には自信があります。今はボケないようにと始めたんですが、すっかり趣味の一環となり現在では生きがいにもなっています。私は足が悪いのですが早く歩けるようになって近くのホームセンターに自分で材料を買いに行きたいです。

ご利用者コメント

大阪市　Yさま

作品
ペーパークラフト

この利用者様は若い頃はミシンの仕事をされており、何かを作ったりすることが大好きな女性です。このようなペーパークラフトも紙の接着時にシワにならないようにピシッと貼るなど職人さんの様相で楽しそうにお話されます。
リハビリとしてはこの利用者様が今後も制作活動が出来るように、またご本人の希望である歩いて外に行く事を可能に出来るように支援していきます！
Yさん、一緒に頑張りましょうね！

担当スタッフより

かなえる
TOPIC

研修会　開催しました！！

平成26年7月12日（土）、大阪市立西区民センターにて、畿央大学 健康科学部 理学療法学科教授の森岡 周先生を講師にお招きし、「脳科学から見た社会参加の考え方」というテーマで研修会を開催しました。

地域で働く上で聞くことが少ない「脳科学」という視点で、講義いただきました。
社会的認知能力、社会的行動に関わる社会脳についての科学的知見から、人間のコミュニケーションや社会参加の意味について説明頂きました。社会参加の有無により、生存率が1.5倍変わる、感情を伴う活動が減ることで相手の感情を読み取る力が低下する、認知症になっても表情認知の機能は保たれるためこちらの表情・対応にも注意が必要である、医療従事者のコミュニケーション能力が相手の満足度に影響を与えるなど、脳科学的な知見を用いながら分かりやすく説明頂き、非常に勉強になりました。

自分の脳が相手に影響を与えているという気持ちを持つということを意識しながら、利用者様と関わっていく重要性を感じました。

また、研修会後には懇親会も開催しました。参加者同士積極的に情報交換を行い、森岡先生もご丁寧に対応してくださいました。

これからも有意義な研修会をどんどん開催し、スタッフの研鑽に努めて参ります。森岡先生、貴重な機会をありがとうございました。



スタッフ インタビュー



・名前
　田中 孝英
・資格
　作業療法士
・趣味・特技
　映画鑑賞、ギター演奏
・好きな物（人）
　ジョーパス、ポールコゾフ、
　スティービーレイボーン(ギタリスト)
・好きな言葉
　笑う門には福来たる
・長所
　マイペース
・短所
　断れない、一人で抱え込む

Q１作業療法士になろうと思ったきっかけは何ですか？
A.身内にリハビリを受けているひとがいたので
Q２これまでのご利用者との関わりで印象に残っていることはなんですか。
A.関わらせてもらった方々はどの方も印象深いです。一緒に神社の境内に行き、漢詩について教わったことなど、様々です。
Q３仕事をしてて「やった！」と感じることは何ですか？
A.ご利用者に自主的な行動が出てきたとご家族から聞いた時などです。
Q４作業療法士として一番大切にしていることはなんですか？
A.障害を持っていても人生に前向きになっていただけるように関わることです。
Q５将来の夢をおきかせください。
A.障害があっても働きたいと思っている方が自分のペースで働ける場を提供する、もしくはそういった事業に関わることです。
Q６最後に淀川ユニットの新リーダーとしての意気込みを！
A.私なりに頑張ります。



まだまだ夏の厳しい暑さが続いておりますが、皆様元気にお過ごしでしょうか？今回の表紙は利用者様が描いて下さったひまわりの絵です。夏に咲くひまわりがしっかりと描かれており、見ているだけでも元気をもらえました。
いつも皆様の作品には社員一同、元気をいただいております。
これからもより良いレターが皆様に届けられるよう、社員一同がんばっていきます。

編集者　井戸　孝則